

16) 第十六日目 雌阿寒岳(1499m) H19年7月3日(火) 晴(一日中晴天で暑かった)

- ・今日は私の誕生日！！
4:30起床、5:30出発
- ・朝起きると隣に茨城ナンバーの車がある。話をすると百名山登破にむけて頑張っていると言う。5時ごろ出かけていった。私が登りはじめてしばらくすると、もう下山してくる彼に会った。「なに？もう下りてきたの？オンネトウ側へ回らないの」「私の目的は百名山の頂上を踏むだけ」との返事。そんな山の登り方もあるのだねとあらためて認識、だけどなんとなくさびしいね。



ワンちゃんが道案内



樹林帯を抜ける

- ・途中林の中では旅館のワンちゃんがついてきた。林を抜けてガレ場に至るころ、大阪から来たと言う60歳台と思われるご夫婦に追いつかれ一緒に登る。花の名前をあまりご存じないので教えてあげる。メアカンフスマ、メアカンキンバイ、ゴゼンタチバナ、マイズルソウなどなど。



オンネトウが眼下に



雌阿寒岳山頂



雌阿寒岳噴火口

- ・頂上には誰もいない。このご夫婦と私だけ、後ろから登ってくる人もなく静かで狭い頂上だ。
- ・雌阿寒岳の噴火口はすごい！
足元から垂直に切れ落ちる噴火口はまさに奈落の底。底ではゴウゴウと噴煙をあげている。落ちたら一巻の終わりだ。
- ・一緒になったご夫婦が来た道を戻ろうとするので「オンネトウへ回らないのですか」と聞くと考えてもいなければしく急遽オンネトウへの道を選んで下っていった。奥様が利尻で足の筋肉を傷めたとのこと、ゆっくりと下っていった。私はその後から少し間をおいて下る。天気も良く、花も良く、最高の登山。

・下りの道でも花が豊富で写真を撮りながら歩いたのでオンネトウまで3時間近くかった。



下り道ではエゾリスにもお会いしました



メアカンフスマが満開

・湖岸で助六すしの昼食をとり、オンネトウの東湖岸の山道を雌阿寒温泉へ向かう。
40分ちょっとで駐車場に着く。



下山後の洗濯

・炎天下の駐車場で洗濯し車の窓に掛けて干す。
まさに万艦旗状態。

・コーヒーを飲みながらこれからの行動計画を練る。

雌阿寒岳は明日登る予定だったが今日登ってしまった。大雪山から一日ずつ早くなっている。

・今日斜里へ行ってしまふことも考えられるが、今日は私の誕生日だ。
目の前に雌阿寒温泉の国民宿舎「野中温泉」がある。ゆっくりと布団の上で寝る事にした。
・温泉には石鹸、シャンプーの類は用意されていないが、いわゆる湯治場の温泉で泉質も最高。
真夏の太陽を浴びてのびのびとした露天風呂もまた最高。食事は部屋へ運んでくれるので部屋食。
これもまた誕生日のイベントとしては最高。一人静かにビールで乾杯、のんびりと食事した。
・外は携帯が圏外だが、部屋の電話では外線が通じ朋子と連絡が取れた。
* 誕生日の朝は車の中のベッドで明け、夜は野中温泉でのんびり乾杯、畳、布団の上。
最良の日だった。

[見られた花] 29種(名前のわかったもの 24種 名前不詳 5種)

- ・メアカンフスマ
- ・ゴゼンタチバナ
- ・マイズルソウ
- ・ミツバオウレン
- ・イソツツジ
- ・ミヤマヤナギ
- ・エゾマルバシモツケ
- ・イワブクロ
- ・メアカンキンバイ
- ・コマクサ
- ・ツマトリソウ
- ・ズダヤクシュ
- ・ジンヨウイチヤクソウ
- ・オククルマムグラ
- ・シロバナエンレイソウ
- ・エゾノヨツバムグラ
- ・コバノイチヤクソウ
- ・サギスゲ
- ・ヒメイチゲ
- ・ミヤマハンショウズル
- ・ツバメオモト
- ・マルバシモツケ
- ・コケモモ
- ・オオレイジンソウ



代表花・メアカンフスマ



代表花・メアカンフスマ



メアカンキンバイ



?